

# 2014 年度（H26 年度）事業報告

## 慈愛園乳児ホーム

# 平成 26 年度 慈愛園乳児ホーム 事業報告

## 【今年度の慈愛園乳児ホームの動き】

平成 24 年 11 月雇用均等・児童家庭局通知「児童養護施設等の小規模化及び家庭的養護の推進について」の中で「小規模保育」については本園でも検討され、今年度、小規模保育棟建築と試験的運用を実施した。当初、本年度中頃からの建築の予定であったが補助金の関係もあり 2 月に完成となる。運用に関しては本園プロジェクトチームによる検討が行われ、備品購入や勤務態勢など検討が進められている。

また、今年度は第三者評価受審の年となっていた為、9 月に一般社団法人熊本県社会福祉士会からの第三者評価を行った。結果については熊本県県庁のホームページに掲載されているとおりであり、概ね良好な評価の結果となった。今後、改善しなければならない事項についても既に法人との計画にあるものである。なお、第三者評価を行う中で現状に満足せず自主的に改善目標が考えられるものについては現在、職員自身により検討され、来年度のプロジェクトに反映される計画である。

今年度の入所児童在籍状況については下記のとおりであるが、分析としては昨年度末に退所が重なり充足状況が低いまま本年後期まで継続した。その後、県・市ともに多くの児童の入所があり、現在、満床状況が続いている。ケース内容は以前に比べネグレクトまたは養育スキルの低さからの入所が増え、保護者との対応が非常に難しくなった。

特記事項としては昨年に続きノロウイルスが流行し、入所児童はもとより職員でも罹患者が発生し、勤務態勢にも影響が出る結果となった。しかしながら早期の隔離と感染に対する対応が功を奏し、乳児への感染をある程度、防ぐ事が出来た。これは前年の感染からの反省でマニュアルの改定や感染症予防備品の確保などを職員が検討・実行した事が結果につながったものと言える。前年度に引き続き、来年度も更なる感染症対策を検討し、再発防止の意識を喚起する必要がある。

## 【平成 26 年度入退所状況、子育て支援事業の概要について】

### (1) 平成 26 年度在籍状況 (平成 27 年 2 月 1 日現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初日	11	11	11	11	11	11	10	10	11	14	15	15	141人
退所	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1	3	7人
入所	0	0	0	0	0	0	1	1	4	1	1	0	8人
末日	11	11	11	11	11	11	10	11	14	15	15	12	143人

### (2) 一時保護

市-U.S (4/3~6/24) R.S (4/3~6/24) 83 日

M.O (6/23~9/8) 78 日 A.T (11/11~12/15) 35 日

(3) 子育て短期利用事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ショート	9	13	5	3	8	5	1	5	0	14	14	2	79泊
利用人数	3	4	4	2	3	3	1	3	0	4	1	1	29人
トワイライト	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	5人

(4) 病虚弱児加算対象児童

入所中・J.K ・K.S ・N.F ・K.N

退所児・N.T (4～12月) ・Y.M (4～10月)

(5) 被虐待児受入加算対象児童

・S.T (H26.11～H27.10) ・M.H・A.H・T.H (H27.1～12月)

・A.T (H27.1～12)

(6) 病児保育エーネホーム利用児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H23年度	97	72	97	120	107	94	94	74	96	104	114	107	1176人
H24年度	67	67	60	94	80	78	74	90	67	65	85	89	916人
H25年度	80	89	86	76	43	39	67	71	85	98	112	102	948人
H26年度	94	81	99	60	53	64	71	37	80	130	80	72	921人

(7) もうすぐパパママ教室

4月6日	6月1日	8月3日	10月5日	12月7日	2月1日
3組	0組	0組	0組	0組	2組

12/7は本園での感染症流行のため中止となった。

【平成26年度における苦情解決等の状況について】

(1) 平成26年度苦情受付件数は0件

(2) 事故として扱ったケース

誤薬-3件 子ども同士のトラブル-1件 指示薬投薬不備-1件

(3) インシデントアクシデント (ひやりはつと)

誤飲 (未) -2件 報告ミス-1件

## 【平成 26 年度業務改善事業と課題】

### （１）家庭的養育の推進、養育単位の小規模化に向けた基本計画の実行

前年度より継続している「養育単位の小規模化」を目指し、小規模養育の施設整備を進めた。小規模保育を実現させるための具体的な構造や備品等をプロジェクトチームと建築会社を選定し完成に建築完成に至った。実際に小規模保育を３月に試行し現在も勤務態勢の見直しが随時、行われている。

### （２）小規模養育実現に向けた養育態勢の検討

現在の勤務態勢では小規模養育を含めた実働は難しいものがあり、何らかの改変を行わなければならない。今年度、実際に運用するにあたって、来年度に向けた人員の確保や勤務システムの変更などを行う為にプロジェクトチームを発足し勤務システムの話し合いを続けた。プロジェクトチームによって現在、勤務態勢をマニュアルに反映させるための検討が行われている。

### （３）業務改善のための自己評価、第三者評価の受審

自己評価については前年度に続きグループでの評価を行った。内容としてはグループ内で第三者評価に対する理解も含めた議論を重ねる事が出来た。

第三者評価は前年度決定したとおり、今年度 9 月に熊本県社会福祉士会により評価を行い、結果は概ね良好であった、実際の指摘事項としては事業所単位で決定する事ではなく法人レベルで行うものでの改善指摘（法人監査・相談窓口設置・人事考課）があったが、既に改善又は計画済みである。また、受審時に指摘に上がらないまでも改善の余地のあるものは、マニュアルに反映出来るよう来年度プロジェクトで計画している。

### （４）スーパービジョン、コンサルテーション体制について

前年度から基幹的職員による月に 1 度のスーパービジョンを新人、1 年目のスタッフに対して行ってきたが、時間の都合もあり、なかなか定着しなかった。しかし今年度は他職員の理解もあり、各月にスーパービジョンを行う事が出来た。

コンサルテーションについては中長期計画（自立支援計画）を作成する過程においての助言として ST によるコンサルテーションを行ってきた。前年度との変更点はアドバイザーである ST が帰京したため、心理士である CP をアドバイザーとしてコンサルテーションを実施した。アドバイザー変更を行ったが目的が明確である為、前年度に引き続き計画的に実施する事が出来た。

#### (5) 地域子育て支援事業の継続と充実

##### ・病児保育

前述した統計からみると本年度も 900 人以上の利用があった。この事からも「病児保育」の必要性が強く感じられる。

##### ・パパママ教室

体験学習として当園の機能を十分、生かす事が出来る事業である。利用数が少ない事は残念であるが、次年度は行政とのコンタクトを取り利用数増に努めたい。

##### ・ショートステイ、トワイライトステイ

空きベッド利用のため緊急時の対応が難しい現状がある。又、今年は熊本乳児院が感染症の流行のため本園のみに利用依頼が集中したが、本園も満床状態の為、利用出来ないという事態が起きた。現在でも利用者のニーズは高く週に 2～3 回は問い合わせの電話がある。

#### (6) 業務改善のための平成 26 年度プロジェクト編成及び事業推進

##### ・プロジェクトー添付資料 1

1. 小規模グループケア検討プロジェクト
2. 療育的養育検討プロジェクト
3. ライフストーリーワーク研究プロジェクト
4. グリーン&防災プロジェクト
5. 保育士会研究発表プロジェクト

#### 【平成 27 年度事業計画の骨子】

1. 小規模保育グループの実践
2. 小規模化に伴う勤務編成見直し
3. 第三者評価、自己評価による業務改善
4. 上記のマニュアル化
5. スーパービジョン体制の確立
6. 平成 26 年度以降の施設中長期計画ー添付資料 2